

箏の授業と演奏会(2026.2.16)

2月16日、西園真理子先生（箏）、本藏理恵先生（箏）、福田桔山先生（尺八）による演奏会をヨセフホールで実施しました。

ラ・サール中学では3年に一度、音楽の時間に、箏を貸していただいて箏の授業を実施しています。二人に一面の箏が用意され、生徒たちは箏に長い時間触れられますので、3回の授業で上手に「さくら」を弾けるようになります。中には難易度の高い「押し手」の手法も用いた装飾付き「さくら」を上手に弾けるようになる生徒もいます。

演奏会は、15年前、箏の授業をした時に当時中学1年生だった本藏先生の息子さんが「僕の母は箏の先生なんですよ」と教えてくれて始まり、それ以来3年に一度開催されています。

今回も「六段の調べ」、「春の海」などの定番曲から、尺八の「キビタキの森」のソロ部分など、和楽器の魅力を存分に楽しみました。曲の間には先生方が代わる代わる曲を紹介し、聴きどころを教えてくださいましたので、聴き手の理解も深まりました。

日本の素晴らしい文化を次世代に繋げるために広く演奏活動をされる先生方の音は、とても優しく温かい中にも芯のある響きでした。生徒も熱心に耳を傾け、和楽器特有の凜とした音、掠れた音、龍頭を打楽器のように叩く音、音の揺らぎ、力強い息の音などを生徒達が食い入るように鑑賞している姿に福田先生も感心していらっしゃいました。

3年後の演奏会が今から楽しみです。

